

「日本語能力の判定基準」等に関するワーキンググループの進め方について（案）**○経緯**

平成25年に、日本語教育小委員会に設置された「論点整理に関するワーキンググループ」が取りまとめた「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について（報告）」において、具体的な施策の方向性や日本語教育の推進方策を議論していく際の検討材料として論点が11に整理された。論点3として「日本語教育の標準と日本語能力の判定基準について」が示された。このうち「日本語教育の標準」については、第19期日本語教育小委員会において検討を行い、「日本語教育の参照枠」の一次報告案が作成されている。

○現状と課題

外国人の日本語能力を判定する方法として国内外で様々な試験が実施され、個々の指標に基づき、レベルや判定基準等が設定されているが、学習・教育内容の多様化が進む中、各試験が判定する日本語能力についての共通の指標を整備し、利用できるようにすることが必要となっている。

○目的

国内外の日本語学習者が日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容及び方法を明らかにし、外国人が適切な日本語教育を受けられ、評価できるようにするため、「日本語教育の参照枠」の考え方にに基づき、外国人の日本語能力の判定基準及び評価の在り方について検討を行い、令和2年度末に二次報告を取りまとめる。

○方法

- ・ 日本語教育小委員会での審議と並行して、小委員会の下にワーキンググループを設置し、審議のための検討及び資料作成を行う。
- ・ 令和元年度に示された「日本語教育の参照枠」一次報告案に続く二次報告として作成する。

○検討事項（案）

- (1) 開発した Can-do の検証方法に関するガイドラインの策定について
- (2) 「日本語教育の参照枠」における評価の考え方について
- (3) 既存の日本語の試験と「日本語教育の参照枠」との関連付け方法について
- (4) 社会で活用される日本語能力の水準を判定する試験に求められる要素について